

日本現代中国学会第 70 回全国学術大会のご案内

会員各位

2020 年の日本現代中国学会全国学術大会は、10 月 31 日（土）と 11 月 1 日（日）の両日、明治大学駿河台校舎において開催することを予定しておりましたが、コロナ禍で大学施設の外部貸出ができない状況にあるため、全国理事会、総会を含めてすべてを Web によるリモート開催（Zoom によることを予定）とすることとなりました。そのため本年は懇親会は開催いたしません。参加申し込みの手続など、例年と異なる点もあるかと存じます。なにぶん初めての試みであり、不慣れな点がありますが、成功に向けてご協力たまわりますようお願いいたします。

今年の全国大会共通論題のテーマは、「**大中華圏における互動、凝集、離反の力学変遷**」です。

大陸中国、香港、台湾という 3 つの華人社会が織りなす相互作用の力学が、戦前から今日までいかに質的な変遷を遂げてきたかを、歴史・政治、法、経済、文化・文学・言語の各領域に即してトレースすることを試みます。

大陸中国が戦後、「近代」の軌跡を外れ、社会主義の道を選択したのに対して、香港、台湾では資本主義が維持され、むしろ国際社会と共にありました。台湾は中華民国が大陸で目指した「近代」の遺産を引き継ぎ、近代国家建設が推進されました。香港は大陸中国からの亡命者の拠点となり、国際社会に開かれた経済や文化の窓としての役割を担いました。香港も台湾もアジアのリトルドラゴンの一角を占めて、経済は高度成長を遂げました。1970 年代以降、大陸中国が国際社会へ復帰すると、台湾では政治の民主化が起動し、選挙によって定期的に政権交代を繰り返す民主政体を成熟させました。1997 年に植民地・香港が中国に返還され、香港は「一国二制度」の建前のもと特別行政区となり、この前後から大陸中国の市場経済化、経済成長を牽引するようになります。

改革開放から 2000 年代の初めくらいまでは、大陸中国の人びとにとって、香港、台湾はあこがれの対象であり、法制度、経済、文化の面で学ぶべき相手と認識されていました。煽情的な「港台歌曲」の旋律、歌詞は大陸中国人の心を深く魅了し、ポップカルチャーの流行も港台の後を追っていました。ところが大陸中国が急速に経済発展を遂げ、港台を遙かに凌駕するようになると、関係力学は大きく変容します。経済的には香港、台湾は、逆に大陸中国への依存度を高めていき、同時に人、カネ、モノ、情報の流れを大きく変えていきました。

しかし、こうした格局にはとくに昨年から急速に再度の変容を生じつつあるようです。2019 年に香港で生じた「反送中」に端を発した民衆運動、そして 2020 年に施行された香港版国家安全法は、経済力にものを言わせた大陸中国の優勢構造に新たな変化を生じさせ

ています。2020年1月の台湾総統選挙における蔡英文氏の圧勝も、大陸中国の要因が大きく結果を左右しました。大陸中国の経済成長に陰りが見えてきたことともあいまって、大中華圏の互動関係は新たな歴史的段階に入ったかのようです。

そうした歴史の転換点にあるいま、戦前以来の3つの政体の互動関係の質的変遷を振り返り、将来の行く末を展望するためのセッションを企画いたしました。

記

日時：2020年10月31日（土）14時より、11月1日（日）10時より

場所：Zoomによるリモート開催（事前参加申し込み必要）

参加費：無料

★参加申し込み（全国理事会、共通論題、総会、分科会それぞれ別々に参加申し込みをお願いいたします）

申し込み用サイト URL は後日、ご連絡いたします。

申し込み期限 10月23日（金）17時まで

明治大学大会実行委員会
鈴木 賢

お問い合わせ先：
〒101-8301 東京都千代田区駿河台 1-1
明治大学研究棟 1210 号
E-mail genchu2020@gmail.com

以上

大会プログラム

10月31日（土）

10：30～	全国理事会
13：00～	共通論題：大中華圏における互動、凝集、離反の力学変遷
17：15～	総会

11月1日（日）10:00～17:15 分科会

	1	2	3
10:00～12:00	A [企画] 香港逃亡犯条例	B 歴史・社会	C 文化
13:00～15:00	D [企画] 兩岸三地	E 文学	F 社会・経済
15:15～17:15	G [企画] 農村	H 社会	I [企画] コロナと中国

※全国理事会と総会はオンラインでの遠隔開催を予定しています。詳細は追って電子メールにてお知らせいたします。

■10月31日（土） 理事会／共通論題／総会

10:30～ 全国理事会（2020年度（旧）、2021年度（新））

13:00～17:00 共通論題「大中華圏における互動、凝集、離反の力学変遷」

座長：鈴木賢（明治大学）

報告1：歴史・政治 深町英夫（中央大学）

代表制の諸相：通時的・共時的考察（仮）

報告2：法律 高見澤磨（東京大学）

中国・台湾・香港の不均衡な互動的法形成

報告3：経済 中川涼司（立命館大学）

中国経済の2つの「窓」としての香港、台湾とその役割変化

報告4：文化 西村正男（関西学院大学）

中華圏の流行文化史を再考するー言語とアダプテーションの視角から

討論1：福嶋亮大（立教大学）

討論2：阿古智子（東京大学）

17：15～18：15 総会

■11月1日(日) 企画分科会・自由論題分科会

【午前の部】

10:00~12:00 A、B、C分科会

A [企画] 「逃亡犯条例改正反対デモ」と香港社会——法・政治・文化人類学的視点からの考察

座長：倉田徹（立教大学）

報告1：萩原隆太（一橋大学大学院博士後期課程、駐香港日本総領事館専門調査員）

香港における社会運動と法：逃亡犯条例改正反対デモを事例に

報告2：小栗宏太（東京外国語大学博士後期課程）

不協和音：香港逃亡犯条例改正反対デモに見るポップカルチャーと抗議運動

報告3：袁晨旭（東京外国語大学博士後期課程）

逃亡犯条例改正反対デモと中国ナショナリズム：比較的視座から

B [自由] 歴史・社会

座長：中村 元哉（東京大学）

報告1：陳希（東京大学大学院総合文化研究科）

王照と「官話合声字母」——その普及過程の実態に着目して

報告2：劉靈司馬（明治大学大学院理工学研究科博士課程）

『哈爾濱人』にみる「流人文化」の不可逆的変化：1990年代から2010年代の哈爾濱を中心に

報告3：横山政子（志學館大学）

中国東北農村の公共食堂の運営

C [自由] 文化

座長：菅原慶乃（関西大学）

報告1：周舒静（東京都立大学人文科学研究科博士後期課程）

東アジアにおける『おしん』ブーム——中国大陆と香港の受容の比較

報告2：張宇博（早稲田大学大学院文学研究科中国語中国文学コース）

香港映画にみる越境と香港アイデンティティ

【午後の部】

13：00～15：00 D、E、F分科会

15：15～17：15 G、H、I分科会

D [企画] 「兩岸三地」の政治：認識・政策・相互作用

座長・討論者：小嶋華津子（慶應義塾大学）

報告1：松田康博（東京大学）

中国大陸から見た香港と台湾

報告2：倉田徹（立教大学）

香港から見た中国大陸と台湾

報告3：黄偉修（東京大学）

台湾から見た中国大陸と香港

E [自由] 文学

座長：中村みどり（早稲田大学）

報告1：朱沁雪（東京都立大学人文科学研究科博士課程）

ゼロ年代中国のファンタジーについて——『今古伝奇 奇幻』を中心に

報告2：瀬戸宏（摂南大学名誉教授）

曹禺『雷雨』魯大海の形象について

報告3：楊冠穹（関西外国語大学外国語学部助教）

もう一つの「八〇後」：「詩界80后」

F [自由] 社会・経済

座長：巖善平（同志社大学）

報告1：煤田徳東（大幸薬品株式会社海外事業部アドバイザー、桃山学院大学ゲスト講師）

中国における新型コロナウイルスの初動期対応について

報告2：張哲（同志社大学大学院博士課程）

日本の対中農産物輸入の規模拡大と構造変化——財務省貿易統計に基づいて

G [企画] 中国農村の社会と経済

座長：金湛（愛知大学）

報告1：巖善平（同志社大学）

戸籍改革、「農転非」およびその社会経済的効果——中国総合社会調査に基づく

報告2：堀口正（大阪市立大学）

中国農村社会における生活組織と女性ネットワークの役割

報告 3：金湛（愛知大学）

生産関係の角度からみた中国の土地政策——「三権分置」政策に対する考察

討論者：原田忠直（日本福祉大学）

H [自由] 社会

座長：佐藤千歳（北海商科大学）

報告 1：劉曼怡（一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程）

中国におけるアイドルファンとインターネットナショナリズム

報告 2：村上志保（明治学院大学）

中国プロテスタント教会をめぐる 2000 年代以降のグローバル化の動向と影響

報告 3：磯部美里（国際ファッション専門職大学）

西双版纳タイ族のタイ医学における治療とケアの実践—刮痧の事例を中心に—

I [企画] 新型コロナウイルス感染症と中国：一党支配の応答

座長：加茂具樹（慶應義塾大学）

報告 1：政治経済 伊藤亜聖（東京大学）・加茂具樹（慶應義塾大学）

コロナ感染症と中央地方政府の応答：2020 年 1 月から 4 月までの政治過程

報告 2：政治社会 渡辺直土（熊本大学）

共産党政権における感染症対策と社会管理

報告 3：外交 井上一郎（関西学院大学）

新型コロナ・パンデミックと中国の対外行動

討論者 1：江口伸吾（島根県立大学）

討論者 2：廣野美和（立命館大学）